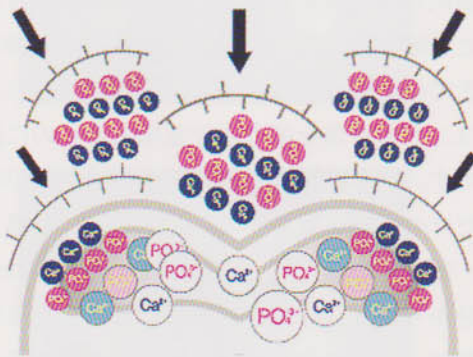


『むし菌の科学』

再石灰化を促進する因子

リカルデント（CPP-ACP）は、「乳製品を多くとる人たちにう蝕が少ない」ことに着目したメルボルン大学 エリック・レイノルズ教授の15年に及ぶ研究の末に開発された画期的な新成分です。

ACP は非結晶性リン酸カルシウムのことをいい、CPP（カゼインホスホペプチド）は、牛乳タンパクを酵素で消化したもので ACP をエナメル質表層下まで運搬し安定化させる特徴があります。それらをあわせ持つ新成分、リカルデント（CPP-ACP）は、溶液内でリン酸カルシウムを沈殿させないで過飽和の状態にするという機能を有し、様々な試験によって歯牙表面に局在してう蝕を抑制-再石灰化することが確認されています。



リカルデントには
溶けた歯を元にもどす
再石灰化効果
があるのよ。

むし菌は、細菌による感染症としての側面と、糖尿病や高血圧といった生活習慣病としての側面を持ちあわせています。

従って他の生活習慣病同様、食生活など生活習慣の改善によって予防できる疾患です。

しかし、逆の見方をすれば、家庭での健康管理がなされなければむし菌の予防は非常に難しいものになります。

歯は私たちが生きていくうえで重要な役割があることはもちろんですが、歯が存在する口は、全身の入り口であるわけですから、歯の健康を保つことは全身の健康を保つ意味でも非常に大切な要素になります。



歯の健康も全身の健康も規則正しい生活をする事で守ることができるのよ。